

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ西里(コスモス)		
所在地	静岡県静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	令和5年8月25日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200999-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 9月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援しています。
また、礼儀礼節マナーの強化とサービス業である事の自覚を高めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

興津川の川上流の風光明媚な場所にある事業所で、野生の動物がみられるのどかな場所に、平屋造りで明るく風通しが良い環境に立地している。川に向かってウッドデッキがあり、ユニット間の行き来ができ、気候の良い時には双眼鏡で自然を観察したり、外気浴ができる。理念のとおり職員も利用者もゆったり、穏やかに暮らしていて、利用者はおお客様と考え尊厳をもちながらアットホームに接している。平日のお昼はお弁当をとったり、土日などは利用者の希望をきき、メニューを決めて手作りするなど食事を楽しんでいる。最近生活協同組合の食材を利用する取り組みを始め、更に食の楽しさを増やす工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念に沿って、利用者様がその方らしく暮らす為の情報共有を職員間で行い実践している。	ジョイグループの経営理念と事業所の理念があり、事業所の理念の「その人らしく、安心して暮らし、なじみの暮らし」を職員は心に留め情報共有をして、実践している。常に意識している理念に関連した言葉が多数事務所に掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策として最大限の配慮にて行事は行っている。 ピザ・寿司・うなぎ等の宅配利用にて各行事によりアレンジしている。草刈りを実施。散歩やドライブを多く取り入れながら近隣住民との交わりを行っている。	自治会に加入し、地域との関わりに注力しているため、近隣の「やすらぎの森」から秋祭りのお知らせが届いたり、敬老の日のお祝いが届いている。散歩に出ると近所の人と挨拶を交わすなど地域に自然に溶け込み、近所の方が施設の草刈りをして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の近隣施設管理者との意見交換イベントに参加している。 地域住民との草刈りや挨拶回りにて交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策に向け、延期通知済み。 現状年6回の運営会議が出来ておらず、書面にて通達、必要事項の意見交換している。	運営推進会議はできるだけ書面開催で行い、関係機関と家族に議事録を送付している。	構成員が確立していないので自治会長や民生委員に声を掛け参加してもらえるよう希望します。会議内容を見直し、意見交換を行い、職員にも内容を周知して運営に役立てられるよう取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括支援センター・地元自治会と相互の協力体制を築いている。 地域包括支援センターを通じて、情報をもったり、またサービス利用など介護に関する相談に応じている。 防災、コロナ対策につき連携強化している。	地域包括支援センターとは入居者の問い合わせがある等関係を築いている。社会福祉協議会とは生活保護者の関係でつながりがある。昨年の災害対策で近所や周辺道路の地区の方との連携が行われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行っていない。 職員にも理解してもらう為に、何かあれば、その都度説明をし取り組んでいる。 スタッフ会議、管理者会議にて話し合いも設けている。 議事録を使いより具体化した。	指針、マニュアルは整備されている。施設長会議時に委員会を行っている。内容はスタッフ会議で職員へ周知している。研修は月の会議時に随時ケース検討の形で行っている。	

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で防止に努めるようにしている。 契約時、家族に防止対策の説明と宣言を追加した。 新人オリエンテーションにて説明強化。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて説明		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。 利用者・家族から質問、不安等あれば、時間を作り対応している。 非常に濃い連携が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があれば、スタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。 具体的な議論にて業務に活かしています。 コロナ影響の際、FAX・TELにての家族連絡をマメに行い面会は予約制にした。	生活保護者や家族と疎遠な方がいて、外部評価の家族アンケートは回収数が少なかった。家族に月に1回写真付きで担当者のコメントを載せたお便りを送付して好評である。こまめに家族には電話連絡を行い、要望を聞いて運営に活かせるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見・提案があった時は、職員が納得するまで十分話し合い、反映させている。 また、日頃職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	月1回の会議は職員の出勤状況を見てできるだけ参加できるように設定している。意見は多く出ていて、欠席者も情報共有をしている。現在の管理者には話がしやすいとの職員からの話がヒヤリングであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。 休日等職員から要望がある際には、柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修によるランクアップ試験を行っている。(施設実践研修追加) 個々とのコミュニケーションとメンタル技量を把握し、それに適した環境作りをしている。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括、介護施設への訪問 コミュニケーション強化		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。入居直後は、コミュニケーションを密に取り、関係作りに努めている。入居後の不安や心配事に対し対策と解決策への打ち合わせ強化。 家族連携の増量と密度強化(入居後1日、3日、1週間ごとに様子報告している)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、面談・見学を行い、状況確認に努めるようにしている。 また、不安等が強いようであれば、体験入居なども進めている。 入居まで出来る限りの情報収集する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向・ADLを考慮し、必要に応じて福祉用具・リハビリ等の利用ができるように努めている。 これまでの生活習慣を配慮し、参考に対策する。 可能な限りの要望に応えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることは、行って頂いている。 食器洗い、洗濯物のたたみ等積極的に協力していただき、一緒に暮らす仲間としての関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が利用者を支えるパートナーとしての関係を築けている。ご家族様の協力が難しい場合でも、小さなことから協力して頂けるよう、連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等ご面会に来やすい雰囲気作りに努めています。 友人や知人関係を事前調べし、面会に来て頂くようにした。	利用者の友人や知人が訪問してくれることもあり、関係性を断ち切らないよう支援している。家族と協力して利用者の行きたい所に出かけたり、なじみの場所や以前食べたものでまた食べたいとの要望があれば応じるよう配慮している。	

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションがとりやすいよう、職員が間に入るように努めている。 相性の良い悪いを考え、席位置の配慮に努めている。更に工夫し安定している。 ユニット移動による対応。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必ず数回その後の様子を移転先に伺っている。また、その際同業者とのコミュニケーションを深めている。さらに工夫し安定している。 通夜、葬儀への参列。 手紙を送りアルバム作成しお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報収集を行い、極力本人の意向に添えるよう努めている。 誠心誠意対応している。 おたよりに短文の手紙を入れ、意見交換。 (写真を数枚配布)	職員は利用者寄り添い、話を聞いて要望を理解することができている。職員は、お互いに知り得た情報は申し送りノートを利用して情報を共有している。利用者の意向を把握して要望をかなえた介護を行うことで利用者が落ち着いて暮らせるよう職員は心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族からの情報収集を行っている。 必ず面談している。 極力今までのあった生活スタイルを持ち込める様、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状況の把握は、常に行っている。 性格や相性の分析強化に努めている。 (より具体的に事前調べている)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、課題を検討し、介護計画を作成している。 ケアマネとの連携。 ケアマネ、家族とのやり取り回数は格段に増えた。	ケアマネジャーが記録を見たり、職員から聞き取りをして、モニタリングを行っている。職員が主任に訴えたことや家族の要望も主任がケアマネジャーに伝達している。管理者は、今後は介護計画書を見て内容を把握しケアに活かせるように作成を準備している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できている。 スタッフ会議、申し送りノートを活用している。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様と話をしながら、できる限りの支援を行っている。 歩行訓練や散歩によるリハビリ、室内での風船バレー、カルタ、卓球等幅広く取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園、川辺へのドライブによって地域の風景・季節を楽しみ、心身の活力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は、行っている。 必要に応じ、診療や医療の提供を行なう。訪問診療と密度の濃い連携を取っている。これまで以上の意見交換と議論をしている。	事業所の協力医の訪問診療が、ユニット毎に月2回あり、現在は利用者全員が受診している。医師には体調の変化について相談ができ、24時間の対応が可能である。他科についても初期の対応をしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に情報を伝え相談し、適切な受信・医療が受けれるようしている。 また、認知症高齢者に関する処遇方法についての相談や利用者の退去に関する相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との面談を行い、利用者の状況把握に努めている。また、ADLの低下をなるべく抑えられるよう、早期退院を目標に連携を常にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。また、ADLの変化や医療が必要になった場合は、その都度、本人・家族と相談し方向性を示している。 看取りに関する説明を意識した。	契約時に事業所の方針を説明し、同意書を得ている。重度化、終末期になった時には、医師が家族に電話等で説明し、その後事業所は家族と今後の対応について話し合い、家族や本人の意向に沿って支援に取り組んでいる。ほとんどの職員は看取りケアの知識や経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が実施していない。主任による24時間オンコール対応で対応している。 近隣住民スタッフ・リーダー・主任・松下医院連携強化済み。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、警察近隣住民との連携を新たに強化した。 令和4年9月台風の際には自治会長と連携し、情報収集を行った。	コロナ禍で年に2回の訓練が充分にできていなかった。昨年大雨で近所の道路が通行できなくなったことがあり、関係個所に連絡して復旧に尽力してもらった。飲料水は井戸水や行政からの給水で賄うことができた。	年に2回の訓練を消防署と相談して設定を変えて開催し、備蓄リストの作成を法人と相談して整備、管理できるよう望みます。25年に向けBCPを職員と話し合っって作成し、長期停電対策についても検討されるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には敬語を使い、利用者を尊重した対応をしている。 常に家族が隣にいるつもりで目上の方に対する礼儀礼節を徹底している。 言葉遣いには更に気配りしている。	開設当初より、利用者の尊厳を重視し職員は言葉遣い、接し方について理解し、実行している。また、職員同士で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見を伝えやすい環境作りに努めている。 主張の強過ぎる方と弱い方とのバランス対応を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに添えるように努力している。ルールで縛りすぎない環境作り。 食事リクエストやレクの希望を聞きながらの取り組み。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けている。 本人の意向を尊重。 誕生日プレゼント等には希望の物や洋服を渡している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店やスーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供し、食事を楽しく取り組んでいる。 個々により食事形態や味付けに工夫。 献立リクエストをしている。	平日の昼はお弁当を取っている。通常の食材は生協から取り寄せ、冷凍食品が収納できるように冷凍庫を新たに用意した。利用者からは麺類が食べたいや味付けについてリクエストもあり、対応している。食器ふき等お手伝いを利用者に行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、料理全体の量を個人に合わせている。また、水分量には気をつけている。 乳製品等により排泄に工夫。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところまで行って頂き、出来ないところを職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。 最大限の配慮と最低限の支援介助。 オムツ、リハパン、布パンツの見極め。	個々の排泄を記録し、パターンを把握して時間や様子でトイレ誘導している。自立の利用者は見守っている。ポータブルトイレが置かれている部屋もあり、屋間でも利用する利用者がいて、職員は時々チェックしている。夜間は巡回時トイレ誘導等をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理や日々の水分補給などで工夫している。 医療連携により処方とアドバイスによる対応。 薬による調整。 本人への声掛け、聞き取り。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、楽しんで入浴してもらえるよう努めている。 スタッフとの相性を取り入れている。 入浴剤にてアレンジ。	週2回、午後に入浴している。入浴剤を使用したり拒否しがちの利用者には、お好みの職員による声かけや誘導、介助等工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせ、横になる時間を設けるようにしている。 空気の入れ換え、室内環境整備。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が共有できるノートがある。受診後は、内容を周知している。 医師の指示を参考に対応(打合せ)している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく利用者一人一人の楽しみごとを把握し、気分転換できるよう支援している。 一人一人の趣味やスポーツ歴に合わせたレクリエーション取り入れ。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デリバリーや季節に応じたアレンジ(ピザ・寿司・うなぎ) 散歩回数を増やし、ドライブ等。	この春には「やすらぎの森」へドライブで花見に出かけた。普段は事業所近くを散歩したり、広いウッドデッキに出て、双眼鏡で周りの景色を眺めている。また、ウッドデッキは隣のユニットにも面しているので、窓越しに訪問ができるような作りになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っている。 主任・リーダーで対応している。 一人一人の帳簿にて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りができるよう支援している。 年賀状を一人一人に書いてもらった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が得られるように、飾り付けなどを行い、心地よい空間作りに努めている。 利用者様皆様が快適に過ごせる清潔な空間を心掛けている。	食堂兼リビングは広いウッドデッキに面し、季節を感じながら景色を見ることができる。イベント時の利用者の写真が掲示され、廊下は窓が多く、採光がよく換気ができる。清掃は職員が1日2回行い、換気扇を1日中使用し、昼の時間帯には居室の窓を開けて換気している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に隣接して広いテラスが設けられ、利用者が自由に出られるようになっている。自分で洗濯物を干したり、設置されたイスで日向ぼっこなど行うこともできる。 テラスでのランチやおやつ時間。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境で過ごして頂けるよう、使い慣れた物を施設でも使って頂くなどして、配慮している。 写真や筆筒等。	利用者は椅子に座ったり、ベッドで横になったりと好きな姿勢で好みのテレビ番組を見れるように、テレビが思い思いの場所に置かれている。亡くなられたご主人や飼われていたペットの写真を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、利用者のADLに合わせ施設内を工夫するように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ西里(なのはな)		
所在地	静岡県静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	令和5年8月25日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200999-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 9月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援しています。
また、礼儀礼節マナーの強化とサービス業である事の自覚を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念に沿って、利用者様がその方らしく暮らす為の情報共有を職員間で行い実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策として最大限の配慮にて行事は行っている。 ピザ・寿司・うなぎ等の宅配利用にて各行事によりアレンジしている。草刈りを実施。 散歩やドライブを多く取り入れながら近隣住民との交わりを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の近隣施設管理者との意見交換イベントに参加している。 地域住民との草刈りや挨拶回りにて交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策に向け、延期通知済み。 現状年6回の運営会議が出来ておらず、書面にて通達、必要事項の意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・地域包括支援センター・地元自治会と相互の協力体制を築いている。 地域包括支援センターを通じて、情報をもったり、またサービス利用など介護に関する相談に応じている。 防災、コロナ対策につき連携強化している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行っていない。 職員にも理解してもらう為に、何かあれば、その都度説明をし取り組んでいる。 スタッフ会議、管理者会議にて話し合いも設けている。 議事録を使いより具体化した。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で防止に努めるようにしている。 契約時、家族に防止対策の説明と宣言を追加した。 新人オリエンテーションにて説明強化。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて説明		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。 利用者・家族から質問、不安等あれば、時間を作り対応している。 非常に濃い連携が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があれば、スタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。 具体的な議論にて業務に活かしています。 コロナ影響の際、FAX・TELにての家族連絡をマメに行い面会は予約制にした。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見・提案があった時は、職員が納得するまで十分話し合い、反映させている。 また、日頃職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。 休日等職員から要望がある際には、柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修によるランクアップ試験を行っている。(施設実践研修追加) 個々とのコミュニケーションとメンタル技量を把握し、それに適した環境作りをしている。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括、介護施設への訪問 コミュニケーション強化		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。入居直後は、コミュニケーションを密に取り、関係作りに努めている。入居後の不安や心配事に対し対策と解決策への打ち合わせ強化。 家族連携の増量と密度強化(入居後1日、3日、1週間ごとに様子報告している)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、面談・見学を行い、状況確認に努めるようにしている。 また、不安等が強いようであれば、体験入居なども進めている。 入居まで出来る限りの情報収集する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向・ADLを考慮し、必要に応じて福祉用具・リハビリ等の利用ができるように努めている。 これまでの生活習慣を配慮し、参考に対策する。 可能な限りの要望に応えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることは、行って頂いている。 食器洗い、洗濯物のたたみ等積極的に協力していただき、一緒に暮らす仲間としての関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が利用者を支えるパートナーとしての関係を築けている。ご家族様の協力が難しい場合でも、小さなことから協力して頂けるよう、連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等ご面会に来やすい雰囲気作りに努めています。 友人や知人関係を事前調べし、面会に来て頂くようにした。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションがとりやすいよう、職員が間に入るように努めている。 相性の良い悪いを考え、席位置の配慮に努めている。更に工夫し安定している。 ユニット移動による対応。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必ず数回その後の様子を移転先に伺っている。また、その際同業者とのコミュニケーションを深めている。さらに工夫し安定している。 通夜、葬儀への参列。 手紙を送りアルバム作成しお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報収集を行い、極力本人の意向に添えるよう努めている。 誠心誠意対応している。 おたよりに短文の手紙を入れ、意見交換。 (写真を数枚配布)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族からの情報収集を行っている。 必ず面談している。 極力今までのあった生活スタイルを持ち込める様、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状況の把握は、常に行っている。 性格や相性の分析強化に努めている。 (より具体的に事前調べている)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、課題を検討し、介護計画を作成している。 ケアマネとの連携。 ケアマネ、家族とのやり取り回数は格段に増えた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できている。 スタッフ会議、申し送りノートを活用している。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様と話をしながら、できる限りの支援を行っている。 歩行訓練や散歩によるリハビリ、室内での風船バレー、カルタ、卓球等幅広く取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園、川辺へのドライブによって地域の風景・季節を楽しみ、心身の活力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は、行っている。 必要に応じ、診療や医療の提供を行なう。 訪問診療と密度の濃い連携を取っている。 これまで以上の意見交換と議論をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に情報を伝え相談し、適切な受信・医療が受けられるようしている。 また、認知症高齢者に関する処遇方法についての相談や利用者の退去に関する相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との面談を行い、利用者の状況把握に努めている。また、ADLの低下をなるべく抑えられるよう、早期退院を目標に連携を常にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。また、ADLの変化や医療が必要になった場合は、その都度、本人・家族と相談し方向性を示している。 看取りに関する説明を意識した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が実施していない。主任による24時間オンコール対応で対応している。 近隣住民スタッフ・リーダー・主任・松下医院連携強化済み。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、警察近隣住民との連携を新たに強化した。 令和4年9月台風の際には自治会長と連携し、情報収集を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には敬語を使い、利用者を尊重した対応をしている。 常に家族が隣にいるつもりで目上の方に対する礼儀礼節を徹底している。 言葉遣いには更に気配りしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見を伝えやすい環境作りに努めている。 主張の強過ぎる方と弱い方とのバランス対応を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに添えるように努力している。ルールで縛りすぎない環境作り。 食事リクエストやレクの希望を聞きながらの取り組み。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けている。 本人の意向を尊重。 誕生日プレゼント等には希望の物や洋服を渡している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店やスーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供し、食事を楽しめるように取り組んでいる。 個々により食事形態や味付けに工夫。 献立リクエストをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、料理全体の量を個人に合わせている。また、水分量には気をつけている。 乳製品等により排泄に工夫。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところまで行って頂き、出来ないところを職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。 最大限の配慮と最低限の支援介助。 オムツ、リハパン、布パンツの見極め。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理や日々の水分補給などで工夫している。 医療連携により処方とアドバイスによる対応。 薬による調整。 本人への声掛け、聞き取り。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、楽しんで入浴してもらえるよう努めている。 スタッフとの相性を取り入れている。 入浴剤にてアレンジ。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせて、横になる時間を設けるようにしている。 空気の入れ換え、室内環境整備。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が共有できるノートがある。受診後は、内容を周知している。 医師の指示を参考に対応(打合せ)している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく利用者一人一人の楽しみごとを把握し、気分転換できるよう支援している。 一人一人の趣味やスポーツ歴に合わせたレクリエーション取り入れ。		

静岡県(グループホームジョイ西里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デリバリーや季節に応じたアレンジ(ピザ・寿司・うなぎ) 散歩回数を増やし、ドライブ等。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っている。 主任・リーダーで対応している。 一人一人の帳簿にて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りができるよう支援している。 年賀状を一人一人に書いてもらった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が得られるように、飾り付けなどを行い、心地よい空間作りに努めている。 利用者様皆様が快適に過ごせる清潔な空間を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に隣接して広いテラスが設けられ、利用者が自由に出られるようになっている。自分で洗濯物を干したり、設置されたイスで日向ぼっこなど行うこともできる。 テラスでのランチやおやつ時間。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境で過ごして頂けるよう、使い慣れた物を施設でも使って頂くなどして、配慮している。 写真や筆筒等。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、利用者のADLに合わせ施設内を工夫するように努めている。		